

令和元年

「奨学生生活を振り返って」

K専門学校 I

令和2年4月、私は北原学院歯科衛生専門学校の夜間部へ入学した。当時、日本では新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた、一部地区では緊急事態宣言が発令された。

私が入学を決めたのは、2ヶ月前の令和2年2月のことである。元々4年生の大学を卒業した後、一般企業の総合職で働いていたが、人生を長い目で見た時、自分の将来のキャリアやライフステージの変化に伴い、当時の都内の会社よりも家から近く車で通える場所で働きたいと考え、歯科衛生士を目指すことにしてた。

しかし、入学と同時に新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた。入学式は中止となり、授業も一時的に行われなくなりた。アルバイトの求人も一気に減少し、希望していた歯科助手の求人はほとんどなくなってしまった。生活費や学費のこともあり、都内の時給の高いラーメン屋でのアルバイトを始めた。しばらく経つと、オンラインでの講義に切り替えた授業が再開した。しかし、歯科の知識が全くつかなかった私は、歯科助手経験者が半数以上いる夜間部の学生達との差に不安や焦りを感じた。だから私は、授業で習った内容だけは人一倍努力を重ね、少しでも知識を身に付けるよう日々努力した。その結果、学年末には優良賞を頂くことができ、小賀基金さんの特別奨学金付生として、学校から推薦して頂くことができた。そして2年目も度々ながら、臨床実習を乗り切ることができるようになった。さらに2年生の7月から、希望していた歯科助手のアルバイトを始めることができ、さらなる知識の獲得に励んでいくことができた。これは私が小賀基金さんのおかげであり、心から感謝している。給付金があたりから、収入が減ってしまうが、知識の向上に繋がる歯科助手のアルバイトを始めることができ、また実際に学業に励むことができた。特別奨学金付生に採用して頂き、1年間努力が報われた喜びと、2年目3年目の学びことへのモチベーションの維持に繋がり、学びの樂しさを知った。この3年間を支えてくれたのが小賀基金さんである。今後、歯科衛生士として働き出しても日々知識と技術の向上に努めていきたい。

大東門學校

将学生生活更振奋返

私は口腔ケアの大切さを沢山の人伝えます。とばでさる歯科衛生士にはりついです。

ぜはら口は食事としない呼吸をしにいります。会話をしてたりする時に欠かすことのできない器は

官がへらです。口腔内が不潔になってしまふと高齢者では口腔内の菌が抜けてしまふと誤嚥性肺炎になってしまふと誤嚥するなどして

先順位が低いのが現状です。このため、一人の優れた歯科の優

気管に入り、誤嚥性肺炎になってしまふと誤嚥するなどして

します。しかし、化の病気には、

今後まで健やかに生活を送っていきます。

ういと門、知識や技術ほど学生生活は残りません。学生生活は強に頑張り、自

すば、悔いの残りはいよいよです。自分の目指す歯科衛生士にはれるようになります。最後にはりまつたが、貴財团のヨリ一

層の成長と心よりお祈り申し上げます。

えてくれた両親、そして奨学金で塾や受験料等を支援して下さった一般財団法人小賀基金様にはとても感謝しております。また、小賀基金に受け取った賞金を受けて私が誰かを支えることになりました。大人になりたいと思いまして、大学の四年間は馬鹿にするこの時代の実現に向けて、何事も感謝の気持で社会に貢献します。

本当にありがとうございました。

市立C高

S'

奨学生生活を振り返るにあたり、まずは金
銭面での支援に心から感謝しています。大学
受験において気兼ねなく参考書を購入するこ
とが出来たため、得意な分野は伸びし、苦手
な分野は補強することができました。その結
果、第一志望であった東北大学工学部建築社
会環境工学科に総合型選抜で合格することが
できました。

私は、奨学生として選んでいただいたこと
によつて、自分の軌跡、そして将来について
改めて考えることができました。奨学生選考
の際に、自分の今までの活動や将来のビジョ
ンを評価していただいたことは、率直にうれ
しかつたです。また、自分の自信にもつなが
つたと思っています。

その一方で、自分のこれから改善点も見
つけることができました。それは英語力です。
将来、国際的に活躍したいと考えています。
しかし、今までの人生を振り返ったときには、
留学したことがないのに加えて、外国人と積

極的に会話をしたりする努力が不足していたよう
うに思いました。

そこで大学では、留学生と一緒に暮らせる
学生寮に入居して、英語力の向上に努めよう
と考えています。大学、そしてその先で国際
的に活躍できるように、今回選ばれた奨学生
としての自信と誇りをもって精進しようと思
います。

奨学生生活を振り返って

3年間奨学金の援助があったおかげで、自分のやりたいことに全力を注いで過ごすことができました。小貫基金さんには本当に感謝しています。

まず、この3年間で私が1番長い間注力していたのが野球部での活動です。野球というスポーツは金銭的な負担が大きいスポーツですが、貴基金の援助があったおかげで、2年間半の間全力で活動することができました。仲間と共に一つの目標に向けて練習に励み、その目標こそ達成はできませんでしたが、とても充実した毎日を過ごすことができ、自分を大きく成長させてくれた日々でした。また、現在は大学進学に向けて勉強をしています。私が貴基金に応募しました理由も、また、県立 F 高校への進学を志したのも、高校生活で野球と勉強のどちらとも両立するためであり、この後の人生で社会に貢献するためにも勉強に励んでいこうと思います。

コロナ禍での3年間であったため、直接お会いすることができずに残念な思いですが、小貫基金さんをはじめとする支えてくださった方々への感謝を忘れることなく、これから先に社会に出てこのご恩を還元できるような人になれるよう邁進していきたいと思います。3年間、本当にありがとうございました。

県立F高校 5

感想文「奨学生生活を振り返って」

CS大学 I

私は小貢基金の奨学生になり、学生生活が大きく変わりました。変わった点として、2つが挙げられます。

1つ目は、生活での金銭的な負担が少し軽くなりました。これが、奨学生になりたかった一番大きな理由であるため、生活の変化に最も影響したと思っています。

2つ目は、アルバイトより、学業に集中できました。アルバイトを減らすことにより、学業に使える時間が長くなりました。

この2つの変化から、達成できたことが2つあります。

1つ目は、学業成績の向上です。具体的に言いますと、2021年度の春学期にはGPAが上限4.0の中2.72でした。しかし、奨学生になった2021年度の秋学期にGPAが3.36、2022年度の春学期には3.83まで向上しました。奨学金をいただいた分アルバイトの時間を減らし、学業に集中できたおかげだと感じています。

2つ目は、資格の取得です。私が取得した資格は、日商簿記3級です。大学の様々な科目を勉強する中で、2年生のとき目指していた旅行業務取扱管理者以外にも多様な職業があることを学びました。視野が広がるとともに、色々な分野に興味を持つようになりました。その中で、日商簿記という資格は、どの業界でも使えることを知りました。就職活動をする上で、企業の情報を把握する指標にもなることを学びました。

これから目標は、日本の食品メーカーに就職することです。その理由は、学業やアルバイトを続ける中で、自分が「何にやりがいを感じているか」を考えた時、「食を通して人を幸せにする」ことだと考えたからです。

小貢基金の奨学生の1人として、これから先も後輩たちに恥ずかしくない先輩になれるようにたくさんチャレンジしたいと思っています。

1年9ヶ月間お世話になりました。ありがとうございます。

奨学生生活を振り返って

M大学 K.

この度は約半年間、私たちの学生生活をご支援下さりありがとうございました。とても充実した学生生活を過ごすことができました。12月に入り、私たち [REDACTED] は、卒業研究も終了し、来年の3月に行われる歯科衛生士国家試験に向けて毎日勉強に力を入れています。学生生活最後の一年に奨学生として生活をしてきて、様々なことがありました。この約半年間の生活を振り返ってみて、特に臨床実習が印象に残っています。

4年生の前期の期間に、最後のクールとなった臨床実習がありました。3年生の頃は [REDACTED] また大学病院や総合病院の口腔外科による病院実習が中心でしたが、今回は一般の開業歯科で実習が行われました。大きな診療所とは違って、歯科診療所によって力を入れている治療が異なっていたので、より専門的に歯科の診療を学ぶことができました。また実際に歯科衛生士のメンテナンスを見学して、歯科衛生士によっても指導の仕方や処置の仕方が違っていたので、様々な指導方法や処置の仕方を学ぶことができました。開業歯科のほかにも、小学校での保健指導や高齢者施設の実習もありました。小学校の保健指導では、小学生たちに少しでも歯のことについて理解してもらうため、テーマ決めから授業内容、媒体作成に力を入れ、授業当日も小学生のみなさんに喜んでもらえてとても嬉しかったです。高齢者施設では、訪問歯科や、言語聴覚士による摂食訓練、看護師や介護職員による食事介助の見学が印象に残っています。歯科衛生士は、老化や病気によって「食べる」ことが困難になった高齢者に、その対象者の機能をよく理解したうえで、食事介助を工夫したり、食事の形態を調整したり、定期的な口腔ケアを行うことで、少しでも食事を楽しんでもらうことが大切であると高齢者施設での実習で学びました。

この臨床実習を通して、来年度から歯科衛生士として働くために様々なことを学ぶことができ、将来自分がどのようなことに力を入れて歯科衛生士として働きたいのか考えることができました。最近は、国家試験対策に追われる毎日ですが、あと数ヶ月後には歯科衛生士として社会に出ていくことを考えると、本当に自分が歯科衛生士としてやっていけるのか不安に感じことがあります。ですがこの奨学生生活の間で学んだことは必ず将来に繋がると感じています。なので、歯科衛生士として働いていく上で、学生時代に学んだことを元に、さらに歯科衛生士としての知識や技術を増やしていきたいと考えています。

『奨学生生活を振返って』

M大字 T

この度は特別給付奨学生のご支援をいただき、誠に感謝しております。

現在、私は来年3月の国家試験合格に向けて日々勉強に励んでいますが、小貫基金様からの支援がなければ、歯科衛生士になることを諦めていたかもしれません。今年の6月から模擬試験が毎月あり、合格圏内まで点数を伸ばすために、より一層勉強に集中しなければいけない状況でした。しかし、模擬試験を受けるために高額な受験料がかかり、家計にはかなりの負担となっていました。私は母子家庭で育ち、金銭面で不安を抱えながらも、母は勉強に集中してほしいという理由から、私にアルバイトはさせず大学の学費を支払ってくれています。母にこれ以上、金銭面で負担をかけさせたくないと思いアルバイトをすることも考えましたが、同時期に就活がはじまってしまい、時間的にも余裕もありませんでした。

そんな時、特別給付奨学生に認定していただき、奨学生のご支援をいただいたことで、受験料などの負担がかなり減り、金銭面への不安が払拭されたことで、より勉強に集中することが出来ました。その結果、模擬試験での現在の点数は合格点を超えることが出来ています。

また、国家試験の過去問題集や、後から必要になった教科書などを購入する費用に充て、充実した日々を過ごすことが出来ました。今、学生として吸収できる知識や技術を存分に得て、無事国家試験に合格し、立派な歯科衛生士になって社会に貢献できる人間になりたいと思います。

最後になりますが、ご支援を下さった全ての方々に心からお礼申し上げます。

奨学生生活を振り返って

MX学留学生 M

給付奨学生に採用していただき今まで支援くださいましたこと、誠に感謝しております。ご支援いただいた奨学金は、学費、生活費として使わせていただきました。

私には兄弟が3人いますので、全員分の学費や勉強するための資金の工面が大変厳しい状況にありますが、奨学金をいただいたことで、両親を助けることができ、非常にありがとうございました。

時間に余裕ができ、就職活動を順調に進めることができました。そして学内外の様々な活動に参加し、その活動を通じて色々な経験をすることができました。

日本の文化に触れるため登山や旅行にも行き、また、料理をすることで、リフレッシュすることができ、とても充実した2年間となりました。

日本で就職することを考え、日本の企業の理解を深めるためにインターンシップに積極的に参加しました。インターンシップに参加することで、その企業の事業内容を知り、経営理念を深く理解することができました。

これから残り1年となる学生生活を有意義に過ごしたいと思っています。社会人になった際には、学生と社会人の違いをよく考え、将来必要とされるスキルを備えていきたいと思っています。コロナウイルスの影響で学生生活や就職活動に今後も影響が出ることが予想されますが、屈することなく楽しく過ごし、勉強や就職活動を頑張っていきたいと思います。

今までありがとうございました。

奨学生生活を振返って

M 大字 K

この度は、特別給付奨学金のご支援をいただき、誠にありがとうございます。奨学生生活を振返って、私の夢である歯科衛生士になるため、学内での講義、学内実習、臨床実習、臨地実習を通して歯科衛生士とは何か、歯科衛生士としてどのように医療に携わるのかなど多くのことについて学びを深めることができました。これもすべて小貫基金様の奨学金のおかげで、アルバイトに充てていた時間を勉強時間に充てることができ、学業に専念することができた学生生活でした。現在は、3月に控える学生生活の集大成を発揮する国家試験の勉強に励んでおります。全国模試や校内模試を通し、成績も右肩上がりになっているのも、小貫基金様からの支援のおかげです。この4年間で将来のために繋がる幅広い知識を身につけることができました。残り少ない大学生生活ですが、全力で目の前のことにつとめ、たくさんの教養を身につけたいと思います。そして、3月に行われる国家試験に合格し、4月から歯科衛生士として社会に貢献できるようにしたいです。また、小貫基金様からご支援を頂いたことに恥じぬよう、最後まで真面目に学生生活を送り、立派な社会人として自立できるように今後も一層の努力を行ってまいります。最後になりましたが、ご支援下さった全ての方々に心よりお礼申し上げます。

「奨学生生活を振返って」

M 大字 I

この度は、小貫基金特別給付金奨学生として採用してくださり、誠にありがとうございました。また、約2年間も支援を続けてくださいましたこと、心から感謝申し上げます。

この奨学金は、生活費だけではなく、実習に必要な物資の購入や実習先への交通費、国家試験に向けた参考書の購入費用や模擬試験受験費用等、様々なことに使わせていただきました。新型コロナウイルス流行の中での学生生活はこれまでと違い、制限されることが多かったと感じています。特に臨床実習中には感染対策の面からアルバイトに制限があり、思うように稼ぐことができず、生活が苦しくなりそうでした。そのタイミングで給付奨学生となることが決まり、金銭面でも精神面でも余裕が生まれ、両親と安堵したことを覚えています。また、臨床実習終了後は国家試験の勉強や卒業研究が始まりました。貴財団から奨学金をいただいていたことで、アルバイトの頻度を減らし勉強時間を確保することができました。貴財団の給付奨学生でなければ、恐らくこのような学生生活を送ることができていなかつたと思います。

来年の3月には歯科衛生士国家試験が控えています。来年度の4月から歯科衛生士として社会に貢献できるよう、また、自分の目指す患者様ひとりひとりに寄り添える歯科衛生士になれるよう、さらに勉学に励み国家試験に合格できるよう頑張りたいと思います。

約2年間のご支援をいただきました小貫基金の皆様、本当にありがとうございました。

「奨学生生活を振り返って」

M 大学 A

2年間もの長い間、小貫基金特別給付奨学生に採用いただきまして、心から感謝申し上げます。奨学金のお陰でアルバイトの時間を減らして臨床実習、勉強に集中することができました。大学3年生前期から臨床実習が始まり、初めて大学病院での臨床実習で右も左もわからぬ状態でした。授業では教科書で見たり、読んだりするものの、歯科助手など歯科医院でアルバイトをしたことのない私は、現場に出てみると教科書通りではない症例が多く、日々勉強でした。その日にあった症例をノートに書き込み、家に帰って教科書等で復習をし、器具や手順を覚え、次の日に同じような症例の患者さんのアシストにつくときには実践できるようにしていました。また、実習日誌の作成もあったので睡眠時間は3時間程度の時もありました。そんな中でアルバイトをしていたら身体を壊していたと思います。大学3年生の後期には、臨床実習のペースも掴めてきて忙しい日々でしたが、厳しい実習先だったものの、大変充実していました。

卒業後の進路は、大学院への進学を決めました。卒業研究で義歯と認知症の関連について、研究しているうちに口腔の領域だけでなく、身体全体の研究をしたいと思い、大学院は医学の道を志しました。現在、社会問題である認知症についてもっと追究し、社会の役に立つ何かを生み出せるような研究をしたいと思っております。大学院の進学を決めた際、試験科目が英語だったため、7月頃から英語を本格的に勉強しました。受かるために必死に勉強ができたのは奨学金があったからです。感謝してもしきれません。

この先、卒業試験、国家試験とまだまだ試練が残されていますが、大学を卒業し、歯科衛生士の国家資格を取り、大学院で研究することが貴財団への恩返しだと思っていますので、全力で頑張りたいと思います。

受学生生活を振り返りて

M 大学

特別給付奨学生として採用していただけ、また3年間もの間ご支援いたただき本当にありがとうございました。がとうございました。小貢基金のご支援のおかげで、勉學に専念することがござり、充実した大学生活を送ることができました。

将学生生活を振り返り、特に印象深いことは、臨地実習と海外研修です。臨地実習とは、

歯科病院や医科病院、健診センターなど様々な形態の施設で実習をすることがござりました。実習では、全身疾患を抱えている方やスペシャリストが必要とする方が多くあり、歯科疾患と全身の関連を学ぶことがござりました。頂いた奨学金で、実習で使用する白衣やシーラーズ、交通費などを補填することがござりました。

海外研修では、ハワイ大学へ行き千一ム医療や局所麻酔などについて学ぶことがござりました。頂いた奨学金で研修に必要な物品や食

貴、交通費を補填することができた。また、外研修に参加してうと思えたのは、小貴基金の経済的な支援の存在が大きく、貴重な経験をさせていたたいたことに感謝しています。また現在は、国家試験に向けて勉強を頑張っています。模試を中心に行きの不得意分野を明確にし重点的に勉強しています。頂いた奨学金は、参考書や模試の受験料に使用させたいと思います。

コロナ禍で海外研修に参加することや、様々な施設での実習、勉強に専念する環境があつたことなど、私はとても恵まれた大学生活を過ごすことになりました。それも、大学や先生方、そして小貢基金の支援が、おかげで出来たことです。恩返しバーゲンとすると、歯科衛生士として一人前にたり患者さんには医療を提供していく上で大学で学んだことを活かすことだと思っています。

向けて一層勉学に励み、日々精進して参りました。
いと思ひます。

最後にはなりますが、ご支援いただま本当
にありやとうございました。

奨学生生活を振り返って

学生時代は勉強に精を出し、高い出席率を維持してきました。頑張っているにも関わらず高校まで成績は中級レベルにとどまり、常に自信が持てませんでした。私自身の学習能力に問題があったのだと思います。大学では自分の興味のある科目を選ぶ機会がありました。今までと同様に一生懸命勉強し、成績も良くなつたので、大学から奨学金を推薦していただく機会を得ました。最初はあまり希望を持たず、落選は当然だと思っていました。意外にも合格の通知をもらいました。小貫奨学金の応募に合格しました。小貫奨学金の合格は私の大きな自信になりました。多くの勇気と自信をもらい、より多くの挑戦に立ち向かうことができるようになりました。そして、この2年間に日本の風景を見る機会もあり、日本の美しい景色をたくさん見てきました。熱海のMOA美術館で国内外の美術品を鑑賞し、仲店商店街では地元の魅力を体験できました。4月の上野公園では、桜の花見もしました。また、ボランティア活動、大学のサークル活動（子ども放課後教室）、ヨガのクラスにも参加することができました。様々な経験は私の大学生活を豊かにしてくれました。これらの経験が人生について異なる考えをもたらしてくれました。自分にできること、自分が社会に貢献できることなどいろいろ考えました。考えているうちに将来の目標が徐々に確立しています。

奨学生生活を振り返って

C 学院大学 A



この一年間、小貫奨学金から経済的な支援をいただき、誠にありがとうございました。

コロナ禍の影響により、留学生活はさらに難しくなりましたが、経済的な支援をいただき、両親への負担を減らせ、自分自身にも心身とも少し余裕が出ました。日本語能力のレベルアップに力を入れる以外、様々な知識を得ることで自分の知見を広めていて、学業も順調に進んでいます。

大学院を受験するため、大量の資料や参考文献などを調べていました。そのために、今回の奨学金を使わせていただきました。おかげで、やっと無事に合格することができました。小貫奨学金のおかげで、学部生としての最後の1年間はとても充実した日々を過ごすことができています。

今後、大学院に進学してから、大好きなライブコマースを深めて研究していくと思います。将来は私がライブコマースに関する取り扱う商品について多くの人に知ってもらい、ライブコマース販売拡大を目指して努力していきたいと思います。

小貫奨学金からいただいた経済的な支援の価値はお金以上のものがあるようになります。それは、困った人への手助けすることだと思います。これから的人生は小貫奨学金への感謝を忘れず、微力ながら、社会貢献できるよう尽くしていきたいと思っています。

す。責任感が持てるようになつたことで日々の生活が変わっていきました。学習面では、成績を落とさずとさないよう日々の通学の時間や授業の休み時間を使り効率よく学習ができるだと恩ります。部活動では、野球部として礼儀正しく模範になるように学校生活をしてきました。

4月からは了徳寺大学健康科学部整復医療・トレーナー学科にて、大学生活を送るなどとなりました。4年間、多くの知識を身につけ、自分の目標に向かって日々努力していきます。

ご支援ありがとうございましたことに恥じぬよう、最後まで真面目に学校生活を送りたいと思います。最後になりますが、ご支援をしてくださいり、誠にありがとうございます。

Y高校丁

3年間、奨学金のご支援をいたたきました。
誠にありがとうございます。奨学金を頂いた
おかげでとても充実した3年間を送る事がで
きました。

高校に入学した頃は、新型コロナウイルス
の影響により父は転職を余儀なくされ家計的
にとても苦しい状況でした。しかし、文武両
道に部活動と学習面をしっかりと行うことができ
たので先生から貴社の奨学金の話を聞いた
ところができました。奨学金の支給が始ま
ると経済的に負担が軽減され以前より家計が
良くなりとても感謝しております。このことによ
り、部活動では、野球に集中できるようにな
り部員が多かるがままで nichiru 入りをして大会
でも試合に出されるようになりました。また、
学習面では、3年間通じて良い成績を残すこ
とができ、大学入試では指定校推薦で受験し
合格することができました。

貴社の奨学金をいたたくことで学校生活で
も自分に責任感を持つようになれたと思いま

奨学生生活を振り返り、て K専門学校C、I

3年間を振り返ることで勉強が大変だ、
たと思います。その反面、友達が出来たり、
たくさん知識が増したりとても充実して3年
間でした。私が歯科衛生士になりましたと思
うのは中学1年の時です。歯科衛生士の仕事の
内容にとても興味がありました。1年生の時
は初めて多くの単語などが多く、授業の内容を
理解するのにとても大変でした。2年生の時

は、校内実習や臨床実習を初め歯科衛生士
として必要な知識を少しずつ身に付けること
ができました。また、患者さんとの関わり方
や実際の現場の雰囲気をわかりて充実し
ていました。3年生には、これからは国家試験
の対策の授業があり国家試験に向け知識を
深めています。3月の国家試験に合格し
て、歯科衛生士として働けることには、たら
3年間で学ぶことでまた知識や臨床の現場
で経験させていたいたことを活かして、思

皆さんために精一杯頑張っていきたいと思
います。料金を附けて頂いて本当にあり
がとうございました。

奨学生生活を振り返る

K 東門学校 C U

三年間の学生生活では日々新しい学ぶこと

ばかりで、気持ちが挫けてしまいましたが、学費を納めてくれた両親の

もありましたから、勉強に集中してきました。しかし、

たぬきもしくは、

に新しく学ぶこと

に努力しました。

かり勉強に集中してきました。しかし、

たぬきもしくは、

に新しく学ぶこと

に努力しました。

充実した三年間にして、心掛けました。

そんな中、一般財団法人小貫基金特別給与
奨学金制度を受けさせていたたき、学費の面
で両親に返報できること、非常に嬉しく思つ
ています。

卷之三

いけるような歯科衛生士を目指していきた
であります。

三月の歯科衛生士国家試験に向けて、より一
層気を引き締め、合格に向けて日々努力して
まいります。
最後になりますか、「ご支援してくださった」
(全ての方々に重ねて深くお礼申し上げます)。

奨学生生活を振り返って

■ 高校 K

私は奨学生としての3年間、勉学はもちろんのこと、様々な活動に励んだ。

特に高校2年次に取り組んだSSHの物理の研究である。2018年の台風による関西空港連絡橋のタンカー衝突事故から着想を得て、橋の構造と圧壊強度との関係性を調べた。同じ材質・質量の材料を用いて日本で主に使われている4種類の橋のモデルを製作し、タンカーを想定したおもりを異なる速さで衝突させ、橋の壊れる条件を記録した。材料などの変数制御や、直接測定の難しい値を定理から間接的に算出したことは大学での工学の研究に役に立つと思う。

また、近所の来日したばかりの2人のネパール人に日本語を教えるボランティア活動にも取り組んだ。特にそのうちの1人は高校受験を控えていたため日本語だけでなく数学や理科など様々な教科も教えた。私の友人も集め、週5日間活動した甲斐もあり、第一志望に合格することができた。勉強を教えた日の夜は夕食を共にし、日本語や英語を交えて日本とネパールの共通点や相違点などを話した。特に興味深かったのは、ネパールではヴィクラム暦という暦を用いており、現在2079年であるということであった。異文化や異宗教に触れ、多角的なものの見方ができるようになったと思う。

このように高校生活では様々な挑戦ができ、充実した有意義なものとなった。それを3年間もの長期にわたって支えていただいた小貫基金には非常に感謝している。この経験を糧にこの先の人生を充実したものとし、今後は自分が誰かの挑戦を支えられるようになりたいと思う。

2023年1月23日

奨学生生活を振返って

工高校 工

まず、3年間、経済的なご支援をしていただき本当にありがとうございました。

奨学生おかげで予算不足による不自由にあまり悩まされなくなりました。学校や塾の費用、バスや電車の定期代などは決して安くはありませんでしたが、それでも自分の関心のあることのためにお金を使うことが出来ました。

高校二年生の時にエンパワーメントプログラムに参加して世界の大学生たちと英語で交流できたことはありがたいことです。現代文の模試で出会った文章で気になるテーマがあれば、その引用元の書籍を実際に購入して読むことができました。特に哲学の話や新型コロナウイルスに関する文章を手に入れられたことで、不安の多い現代の中でも安心できるように自分の価値観を更新していくことができました。

奨学生生活を送っている間、様々な経験や読書ができたことで、自分の関心が広がり、また多くの学びがありました。奨学生生活を振返ってみると、自分の人生をより豊かにする出来事がたくさんありました。奨学生をいただくことができなければこのような学生生活を送ることはできなかつたです。今後は、奨学生生活から得たことを通して、社会に還元していきたいと思います。ありがとうございました。